

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年1月16日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4776300116号
法人名	医療法人 愛誠会
事業所名	グループホーム あがいやんせ
所在地	鹿児島県曾於市大隅町岩川5566番地 (電話) 099-482-253
自己評価作成日	平成24年1月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年2月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援として家庭でしていた事で洗濯物干し、たたみ、食事の下準備、簡単な調理、配膳を衛生上の事を配慮しながら殆どの入居者にして頂いている。何年もしてこられた事なのでスムーズにされている。また、気分転換や生きがいにと畑の野菜作りも、種まき、苗植え、収穫と体調に応じて参加して頂いている。その都度、感動感激の表情が見られる。その他、毎日のグループワークで色々なゲームや体操、レクリエーションを行ったり陋見施設に週1回お邪魔して交流会を持っている。月1回の家族面談を行うようにしているが半分以上の家族がなかなか来られず電話でのご報告させて頂く事が多い。もっと家族が入居者に目を向けるようにしたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩川の市街地に立地し近くに学校やスーパー、官公署などの社会資源もあり、利便性や環境に恵まれたグループホームである。法人は長年にわたり医療機関や介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどを運営し、地域医療と高齢者福祉の一端を担っている。広大な敷地は地域にも開放しており、ゲートボール場や子どもたちの通学路や保育園児のマラソンコースにもなっている。また、桜の季節は花見に訪れる人も多く、地域に開かれた法人として運営されている。グループホームの利用者も日常的に散歩や買い物、図書館などに出かけ、無理なく自然体での地域交流が行われている。

離れていても家族との絆が途切れることのないように、入居時に家族がしてあげたい事を聞き取り、家族の援助計画を作成して家族の支援も介護計画に入れている。また、毎月の家族面談は、本人の状況や意見・要望を聞く機会として全家族に定着しつつある。

管理者や職員は「自立支援」を念頭に、利用者の残存能力を活かして日常生活で出来ることを、持ち合いながら取り組み、支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員が閲覧できる場所に理念を掲示している。職員の入職時には、管理者等が必ず理念を伝え、理念の浸透と理念を意識したサービスの実践を心がけるよう適宜指導を行っている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえ、法人全体の理念とグループホーム独自の理念を作成している。職員は毎朝唱和し理念の共有と実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所案内パンフレットを配布することや運営推進会議で家族や地域住民へ理念の浸透につながるテーマ、議題を設定し、会議を行うことにより理解浸透を図っている。	地域行事の見学や小学校・保育園の運動会見学に出かけている。また、敷地内を地域に開放しており、ゲートボール場や花見などで無理なく利用者と地域の方々が交流し合える環境である。中学生の職場体験実習、専門学校生、大学生の研修の受け入れなども行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で地域の方や市職員に集まって頂き、認知症の人への理解や支援の方法等、勉強会を開いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域住民等が参加する運営推進会議を開催し、活動報告や高齢者介護に役立つ情報提供等を行い意見を頂き見直しをしている。また時期に応じたテーマを掲げ話し合ったり勉強会を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、自治会長・民生委員・地域住民・家族・行政等の出席を得て定期的で開催している。ホームの状況報告、ヒヤリハット報告の他、感染症や認知症についての勉強会も行っている。避難訓練後に行ったこともあり、参加者からの意見や助言をもらいながら、安全対策の話し合いも行われている。		

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に必ず市職員(地域包括支援センター)の参加を依頼し実情や取り組みを踏まえた報告をさせて頂き相談もさせてもらっている。	訪問・相談を通して、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全に気をつけながらその方の意思を尊重して、行動に添うようにしている。また、高齢者虐待、身体拘束廃止に向けた研修に参加し、職員の虐待防止に関する理解を深めるよう努めている。虐待についての研修に参加している。日中玄関は開放しており、危険防止の為、散歩時等は付き添っている。	重要事項説明書に「やむを得ない場合を除き身体拘束その他利用者の行動を制限いたしません」と明記されている。また、法人全体の勉強会や毎月のホーム内ミーティングにおいても話し合いの機会を設け、職員の意識付けを行っている。身体拘束廃止委員会も設置され、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時入居者の行動に目を配り思いのままに生活されているか困っていないかを表情や言動にて観察している。また、面会時も様子観察するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域で行われる研修に参加して知識を得るようにしている。参加できない者にはその書類を何時でも見られる所に置き、知識を共有できるようにしている。		

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、口頭と文書にて契約についての説明や疑問点を分かりやすく丁寧にお話している。また、面談時に再度、契約の事をお話したりしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族面談で家族からの要望等を伺っている。苦情が発生した場合は苦情処理対応マニュアルの順に従い、苦情処理報告書に記録し、必要に応じて改善策や再発防止策を講じるようにしている。	重要事項説明書に法人の相談窓口も明記し、外部者に表せる機会を設けている。また、毎月、家族面談を実施しており、利用者の状況報告や意見、要望を聞き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からコミュニケーションを図るように心がけ所属ミーティングで挙げた職員の意見等は適宜毎月の法人内の所属長ミーティングを通じて運営者等へ反映される様になっている。	毎月、全職員参加でミーティングを開き、ケアや行事などについて話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的なストレス軽減策として、管理者と職員一人ひとりの個人面談の機会を設けている。		

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の年間研修計画に基づいた各種研修会の案内や外部研修会の案内を職員に行っている。また、業務時間内での研修の場合等、勤務調整が困難である。研修不参加の者等を対象に所属ミーティング内で随時、研修報告、勉強会を実施している。また、面談をして業務上での悩み等聞き改善につなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣地域の事業所で行う連絡会に在籍し、管理者等が定期的な会合に出席し、情報交換を行っている。他の職員へも参加の呼びかけを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の状況を申し送りや書面情報により把握し、入居前に担当職員を決定してスムーズなサービス開始へと繋がる配慮を行っている。また、入居当日は出来るだけ担当者が関わり、アセスメントシート等を使用した解決すべき課題の把握を行い、相談者の困っていることや不安を早く確認できる体制を取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の機会を設け、施設の運営目的や入居者がどのような生活をしているか等を説明し、アセスメントシート等を使用した解決すべき課題の把握を行い、現在家族が困っていることや不安、家族の健康状態等を十分に伺う体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシート等を使用した解決すべき課題の把握を行うなかで、相談者の求める必要なサービスについて紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、職員と入居者共に携わる事を多く持ちコミュニケーションを取っている。一つの家族という思いを持つようにして、会話や行動を共にして楽しく毎日が過ごせるよう工夫している。		

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族面談等を通じて入居者の状況を細かく報告すること等を通じて家族関係の情報把握、理解に努めている。また、遠方の家族等へも年4回程度情報発信（生活の様子の写真やケアプラン・経過記録・行事参加案内など）している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの美容師が事業所に訪れている。また買い物と一緒に行かれお店で知人や身内に会う機会が持っている。みそ屋・米屋が定期的に来られ購入している。</p>	<p>ドライブで本人のなじみのある場所を回ったり、併設の施設に入居している家族と面会の機会を設けたりしながら、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、友人・知人が訪ねやすいようホームの雰囲気作りに配慮している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>午前・午後（40分～60分）ティータイムの時間を使って、レクリエーションや脳活性リハビリ等を行っている。その中で入居者、一人ひとりの自尊心を高める声かけや主役体験ができる環境づくりに心がけている。また、入居者同士がトラブルを起こさない配慮を常に心がけ、カンファレンスでは入居様同士の助け合いが出来る声かけなどの協議、検討を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>転居した場所へも職員や他の入居者等と共に訪問している。年賀状を出している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者の行動や言葉の一つひとつを大切に捉え、入居者の思いを知る努力をしている。また、毎月の家族面談では、どのような暮らしが入居者にとって一番良いのかを常に話し合い、支援計画に反映している。	日常の会話の中から思いや意向を把握している。また、問題行動、周辺症状のある利用者については特にこれまでの生活や職歴などを把握して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から自宅での生活の様子を聞き、個人台帳に記録している。知人や親戚が面会に来た場合にも自宅での生活の様子を伺う機会を出来るだけつくっている。また、入居者にも日常の会話を通じて、どのような暮らしをしていたかを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活のペースを常に確認しながら、行動や言動の変化を注意深く経過記録を書いている。また、ケアチェック表等を用い生活状況を把握し、支援計画の評価に役立てている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしさ、出来る事はして頂く事を心がけ、家族面談を通して家族、入居者の意見を把握するよう努めている。また、月1回のカンファレンスと変化時にカンファレンスを行い全職員の意見を聞き、これらを支援計画の作成、改善、評価に役立てている。	本人の希望と家族がしてあげたい事を聞き取り、家族の援助計画も作成しながら家族の支援も介護計画に入れている。また毎月、家族との個人面談、職員間のケアカンファレンスを通して現状の介護計画についての検討を行っている。本人の好きな事やこれまでの生活の継続を支援できるように、日常の外出や読書好きな利用者には定期的な図書館利用をサービスに取り入れるなど個別性のある介護計画を作成している。	



鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援計画に基づいた支援の内容を日々個別に記録している。記録用紙は数字として表せるものと、言葉として表現しなければならないものを分ける工夫を行うことにより、業務の効率化を図っている。個別にケアチェック表を用いて日々の支援の実践を記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要支援者への介護予防サービスの提供、一時的な利用を希望する者への短期利用や医療連携体制の整備を行っている。また、家族の状況に応じて通院や送迎などの必要な支援を柔軟に行っている。検査のための入院や1週間～2週間の入院が必要になった場合等は、必要に応じて居室の確保を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院による月1回の往診、週1回の訪問看護にて健康に留意している。隣接する老健施設のPTによるハード面を含めたリハビリ指導の相談、施設の利用者との交流会参加、地域スーパーや図書館へ出かけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等に関しては、入居者や家族の希望に応じて対応し、入居前からの主治医に継続して診てもらっている。適切な情報提供等希望する病院等との円滑な連携に努めている。基本的には、家族同伴の受診となるが困難な場合は、職員が代行する。	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。また、法人の医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られている。	

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制を構築する訪問看護ステーションの協力の下、日々の健康管理や医療面での相談・助言・対応を24時間体制で行っている。また、定期的に訪問看護師が入居者の健康状態を確認している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>事業所は緊急時等の対応を依頼する協力病院として、近隣歯科医と法人関連病院と必要な契約を結び、優先的な医療提供の確保に努めている。入院時は、入院先の病院に入居者の施設での状況・支援方法等を情報提供し、職員は入院後も面会して状況を確認している。また、家族とも協力しながら医療機関と三身一体となって早期退院へ向けて常に情報交換できる体制を作っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所における重度化した場合や終末期における支援のあり方については、入居時または入居前の面談等において重要事項説明書を用いて説明している。入居者の状態が著しく変化した場合には、家族に随時報告して緊急に家族面談を行い、今後の支援等について、かかりつけ医の意見をふまえて協議している。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの方針を重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。急変時や身体状況の変化に伴いその都度医師や家族と話し合いをもち、そして方針を共有しながらホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>支援としてかかりつけ医、家族と協力しながら常に情報交換できる体制を作っている。急変時の対応等について運営規程に定め、緊急事対応等のマニュアルを整備し、適切な対応がとれる体制を図っている。</p>		

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>運営推進会議にて近隣の方々に事業所で火災が発生した場合の協力依頼や予防に関する協議を行っている。また、防災訓練を年2回入居者と一緒に行っている。（自衛消防の流れを作成している。）</p>	<p>年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。地域の協力については法人の広い敷地内に立地しているため困難な状況にあるが、併設の施設とは協力体制が話し合われている。また、訓練後に運営推進会議を開催しており、委員の方々の参加は得られている。自動通報システム・スプリンクラーは設置済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時に他の入居者が気にならないさりげない声かけや排泄失敗等において他の入居者が気にならない配慮、工夫を行う等、入居者の人権を尊重した言葉かけや記録等を行っている。また、職員へのプライバシーに関する研修やプライバシー保護マニュアル等の活用を通じて支援を行う際に注意している。	利用者の人格を尊重した声かけに配慮している。特に排せつに関しては羞恥心が強い利用者もおり、さりげない誘導や声かけの工夫を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において入居者自身が決定していくことを念頭において支援している。外へ出かける場合、ボランティア参加や習慣化されているイベントに参加する場合等必ず、なぜ始まったか、どういう目的か、入居者一人ひとりの役割は何かを必ず説明し、事あるごとに各人に参加の確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な細かなスケジュールは特に設けず、入居者のペースに合わせた生活の支援を行っている。就寝も入居者の休みたい時間に休み、起床もなるべく声をかけずに、音や匂い、明るさで朝であることを自分で理解できるような環境づくりを心がけている。買い物、散歩等も入居者の意志をなるべく尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	馴染みの美容室へ出かける入居者の支援も行っている。朝・夕の着替えについては出来るだけ入居者が選べるように支援している。身だしなみを調える鏡の前に櫛や化粧水を置き、入居者が自分で使うことが出来るように配置している。外出時は身だしなみのアドバイスも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や入居者、家族で管理する事業所の菜園で育てた野菜を収穫して、食材に使用している。。献立についても、何を食べたいか入居者に相談している。調理で、皮むき、切り分け、配膳を手伝って頂き、後片付けも出来る方にはして頂いている。	個々の力量に応じて出来ることは職員と共に行っている。また、季節を感じてもらえるように家庭菜園作りや収穫を手伝ってもらっている。かからん団子・巻き寿司・梅干しの作り方を利用者に教わることもある。ときには、気分を変えて、ホームの庭でお茶や食事を楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物は緑茶、紅茶、麦茶、コーヒー、ココア等いくつか選択できる物を揃えている。嗜好品については本人の体調を優先したり、長期に渡る保存による食品の劣化を防ぐ目的から職員が管理する場合がある。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけを適宜行い、入居者の能力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。定期的に就寝前に、義歯の洗浄を薬を使って行っている。また、職員は口腔ケアに関する研修を受けて、より効果的な口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用する入居者についても必要性をカンファレンス等で議論し、検討を重ね、個々に日中と夜間のパットを替えて、身体状態の変化による場合や夏場と冬場の尿量の違いによる場合等、パットの検討は随時行っている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握しており、日中は排せつの兆候を見逃さないようにしている。そして本人の羞恥心に配慮しながらトイレでの排せつを支援している。自立している利用者もあり、継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の対策として朝食時にきなこ牛乳やヨーグルトなどを用意し、自然排便が促せるように配慮している。また、排便コントロールが困難な入居者は医師や看護師に相談し、その指示に従っている。		

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は特に決めておらず、毎日お風呂がわいている。入りたいときにお風呂を楽しめる。体調により入浴時間を検討しながら入浴してもらっている。また、入浴を好まない入居者については複数の職員が声をかけたり、人前で入浴を促すのではなく、一人になった時に対応するように心がけ、納得して入浴が行なえる工夫を行なっている。	毎日入浴するのが日課の利用者もあり、個々に応じた入浴の支援を行っている。入浴をためらう利用者には足浴や声かけの工夫などして支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、特に午前中は散歩、家事等の活動的な内容で過ごし、午後からは、一人ひとりのペースに合わせてゆったりした時間を過ごしている。夕方は、穏やかに過ごせるように職員の声のトーンも配慮している。また、寝付けない入居者については、テレビや会話等で良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時にDrに薬の説明をよく聞き、飲み忘れの無いよう見守り、少しの状態変化も報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が得意なことを発見し、それを生活に多く取り入れる。また、入居者それぞれの役割を作り、皆が認める場面をつくり、入居者の自尊心を高めている。また、職員は常に感謝の意を忘れないようにしている。レクリエーションのメニューを常に検討して気分転換を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設の庭に入居者と職員で散歩を心かけたり、週に一度老健施設入所棟との交流会等で近隣に出かける機会を多く設けている。家族との面談時や電話で外出、外泊の協力依頼を行っている。	個々の気分や天候に応じて、畑の収穫や散歩、買い物などに出かけている。また、法人の施設での催し物や地域行事の見学などにも出かけている。敷地が広く四季を感じながらの散歩に最適な環境であり、庭のテーブルでお茶をしたり食事をしたりしてホームに閉じこもらない生活を支援している。	

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>スーパーへスタッフと共に買い物に行き、欲しい物があったら購入している入居者も居る。ただ、お菓子を買われたりして糖尿病の方も居るので注意している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は、いつでも自由にかけるように声をつけている。また、入居者が希望した場合には電話をかける支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>見える所に季節の花を飾ったり、畑の収穫物を見ていただいたり、壁に季節を現した貼り物をしたりして季節感を感じてもらっている。トイレの汚染は随時気をつけて清掃している。リビングのソファを明るい色にして温かみを出すようにしている。</p>	<p>家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。オープンな造りの台所は、食事の支度など利用者も一緒にできるようにしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室にソファをおいたり、庭にテーブルやベンチをおき、一人の時間を大切に思い思いに過ごせる環境を設定している。</p>		

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には入居者に応じて、好みの日用品や写真などが置かれ、環境整備は、家族が中心となって行っている。</p>	<p>自宅にいるときから使っていたというマッサージチェアや籐のソファなどが持ち込まれている居室もある。また、書くことが好きな利用者の居室には机といすが設置され、家族の写真や飾り物なども配置したりと居心地良く過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレでの立ちあがり時や廊下の歩行時、ふらつきや転倒の無いよう手すりを設置している。居室の入り口に写真と名前を貼り自分の居室の確認が出来るようにしている。タンスの引き出しに入っているものを明記して貼っている。ペーパータオルは手の届く所に設置。ベッドに柵を設け立ちあがりしやすいようにしている。</p>	/	/



V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームあがいやんせ

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない